

工業高校編 テーマ型+プロジェクト型 インターンシップとは

- 【特徴】**
- 卒業後、多くの生徒が就職する工業高校では、明確な職業観を身につけておく必要があるため、生徒たちでチームを作り、「プロジェクトを完遂させる」など、より実践的なプログラムが良い。
 - その上で、「既存プロジェクトをマニュアル通りに進める」といった現場の社員と同じことを体験させる点も盛り込むと良い。
 - 学校から課題が事前に決められていて、その課題に沿ったプログラムを作成する場合もある。



受け入れの際の心得
コーチ+メンター

生徒が職業観を持てるよう指導やサポートをすることで
社員自身の**専門職への自覚**が養われる

近い将来の新入社員であることを意識した指導が必要です。例えば「5Sの徹底」をプロジェクト内容とし、「社員と一緒に、空き時間で掃除をする」という課題を与えることで、より現場の社員に近い目線で仕事をすることができます。また、限られたスケジュールの中で、「なぜ必要なのか」「何のために行うのか」「仕事を通じて何を実現するか」という仕事の本質を伝える努力が必要となります。

技術を目の当たりにすることで、職業としての「ものづくり」をより明確に意識することができ、社会人としての意識が高まり、採用につながった事例もあります。

【受け入れ担当になったら】

関わり方のポイント①

「技術者として向き合う」

インターンシップを通して仕事の魅力を伝えることで近い将来の新入社員となる可能性もあります。学校とともに「企業でも人材を育成する」という意識が重要です。学校では基礎を、企業では職業としてのものづくりを教えるという観点が人材の育成、次世代の人材確保につながります。

関わり方のポイント②

「安全への意識付けを徹底」

製造業では危険を伴う作業が多くあります。そこで、初日のオリエンテーションで安全指導の時間を確保することが大切。生徒一人ひとりの習熟度から、現場に配置できるかどうかを見極めた上で、現場での作業に送り出す必要があります。

関わり方のポイント③

「プロジェクトを意識」

単なる職場見学や実技実習と変わらないよう、ねらいを定めたプロジェクトが必要になります。例えばある製品を「最初の工程から最後の工程まで通して作る」という全体の流れがみえるプロジェクトであれば、職業を理解し、技術を習得し、さらには形になるものを残すことで達成感にもつながります。

流れを知ろう 基本のプログラム

| | 午前 | 午後 |
|-----|---|------------------------------------|
| 1日目 | ① オリエンテーション（企業概要、注意事項など） ② 座学（安全指導、あいさつについてなど） | ① 企業見学、各部門見学（現場担当者といっしょ） ② 振り返り |
| 2日目 | ① 朝礼 ② 実習（例：担当者の補助作業） | ① 実習（例：組み立て作業） ② 振り返り |
| 3日目 | ① 朝礼 ② 実習（例：検査機器の操作） | ① 実習（例：製品研磨作業） ② 振り返り |

工業高校のインターンシップ実例① クラフトマンII*による技術指導

航空機用部品製造加工業

【プログラム】

ものづくり人材育成を目指し、技術指導を重視するプログラム。学校からの依頼により、「クラフトマンII」を実施し、普通旋盤3級の課題を作るなどを行っている。

| | |
|-------|---|
| 1~2日目 | 企業概要説明、安全指導、現場見学 ・旋盤には危険が伴うため、一度に1~2名ずつ受け入れ、安全教育を徹底する。 ・安全管理に最善を尽くした上で、「この作業は危険だから生徒に手を出させない」ということはしない。 |
| 3~7日目 | 技術指導、実技演習（課題となる製品を、素材から製品になるまで一人で作成） ・可能であれば入社3~4年目の社員を指導係とし、その上に現場リーダーとして担当責任者を配置。 ・指導係の社員はマンツーマンで生徒につき添い、機械の扱いを身体で覚えるまで徹底的に指導。 ・工業高校の生徒は、旋盤機等の取り扱いに慣れていないため比較的早く次の段階へ進める。 ・昨今は、女子生徒も参加するが、原則、男子生徒と同一のメニューを実施。 |

【クラフトマンIIとは】

愛知県が行う「地域ものづくりスキルアップ講座」の一つ。県内工業高校の教育課程に地域の企業との連携プログラムを組み込むことにより、県内すべての工業高校が、産業界のニーズを踏まえた実践的な技術・技能習得の仕組みを確立し、今後の地域産業界を担う人材育成を目指す実習モデル。夏期休業などを利用して、5日~10日間程度の期間で、機械の部品加工やCADオペレーションによる設計など、技術演習を実施。

株式会社 小坂鉄工所（従業員数：79名） 代表取締役社長・小坂廣隆様より

インターンシップで高校生を現場に入れるのは危険だという認識が強く、受け入れをためらう企業が多いでしょう。私たちは若い力を育成し、製造業にできる限り就業して欲しいと、10年以上前からインターンシップを受け入れています。「ものづくり」も大切ですが、それ以上に「人づくり」も大切だと考えます。人づくりは、すぐにはできません。機会を設けて、ことあることに実践し育成することが代表者の使命だと思っています。



工業高校のインターンシップ実例② 安全管理を徹底したプログラム

鋳物部品製造業

【プログラム】

危険を伴う作業は一切行わず、安全管理を徹底したプログラム。「オリジナルの表札を作る」など、一連の業務を通じてものづくりの楽しさを知ってもらう内容で、工業高校の生徒のみならず、普通科の生徒を受け入れることも可能。

| | |
|-----|--|
| 1日目 | 企業概要説明、安全指導、現場見学、表札デザイン案作成 ・企業の理念や安全に対する「考え方」の理解を目的とする。 ・作業現場に向かう前に、社会や仕事に対する厳しいイメージをもってもらうと同時に、担当者の人柄を見せることで生徒の緊張感をほぐす。 |
| 2日目 | 表札製作作業、検査作業（検査、洗浄、塗装錆止めなど） ・危険を伴う作業はさせず、比較的安全な作業や見学にとどめる。また、パソコンなどの事務作業をすることもある。 |
| 3日目 | 表札製作作業、鋳造模型造形（見学）、梱包作業 |
| 4日目 | 素材検査、フライス・ボール盤加工、研磨加工、塗装作業、懇談会 ・社長との懇談会で、インターンシップを通しての気づきや感想を聞き、振り返りをする。ここで企業の新たな課題などを見つけることができる。 |

株式会社 古久根（従業員数：55名） 担当者・宮島佑介様より

鋳造は高温になる作業を伴うため、実際の鋳造工程には携われないものの、安全管理を徹底したインターンシップを平成12年より行っています。若手社員が教えることで、良い意味で緊張感にもなり、スキルアップにもつながっています。高校生には職場の雰囲気や、そこで働く人間を知ってもらい、「この人たちと一緒に働きたい」と思ってもらえるように意識しています。

